

道路ユ-ー-ネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK



小布施PA(下り)から千曲川や対岸の長沼地区を望む。いつか春は来ることを実感。みんな頑張ってる〜!



いつも停めている小布施ハイウェイオアシスのパーキング。鉄柱や建物に残された水位の跡にしばし絶句。



よく利用する新宿までのバス。ウイルス対策必須。ライダー仲間が運転手さんだったので、思わずエール。

「これならカヤックでできるね」。諏訪湖の「御神渡り」は全く予想がつかませませんが、暖冬のお陰でドライブには快適な日々が続いています。毎年この時期は仕事で新潟まで車を走らせるのですが、今年はスタッドレスもいらぬほど雪がなくて、春のようなポカポカで快適でした(単純には喜ばせませんが)。行き帰りで上信越自動車道の小布施PAに寄ってみました。昨年の台風19号で冠水して一時使用不可能になっていたハイウェイオアシスの広いパーキングが見たかったからです。PAからは災害ボランティアで赴いた須坂市の町と千曲川の氾濫箇所が望めました。いろいろ思い出して胸が熱くなります。そしてパーキング。建物や施設にうすらうすら残る水位の跡は腰まであり、よこごまで整備したなあ(泥出し)と感動。まさにその日ここで夜明けかしらうと思っていたカフェのお客様は、不安になって撤退。その後避難命令というタイミングだったようですが、災害時の素早い判断や的確な対処法って本当に大切ですね。パーキングにちょっとだけ残っている土砂のあとや樹木や造園の様子を延々と眺めている怪しいオバさん(私)は、その日の夕方ニュースを観て、再び歓喜の声をあげました。なんどこの辺りでは特に被害が大きかった長野市豊野地区

で、1キロに渡って街路樹120本にイルミネーション(8万個のLED)が灯されたというのです。市商工会青年部が街を少しでも明るく元気にしたいという思いで、市民たちと6時間かかって作業したそうです。復興の励みになりますね。仮設住宅に移った人が多く、寂しくなった街にも人にも心の灯火大事です。3月末まで見られるとのことなので、是非とも足を伸ばしてみたいです。

さて、新潟めぐりで嬉しい出来事がありました。私が日本一周ツーリングの最後で立ち寄った妙高市新井の滝沢モーターズのオーナー滝沢吉和さんがカフェを訪ねてきてくださったのです。43年ぶりの再会! 当時は19歳。一年の旅を終えて東京へ戻るところで、新井まで来たら走り出し、新井まで来た時にバイクが不調に。夕方だったので宿を取ったところ、お仲間と夕食を御馳走してくださいました。話をたくさんして楽しかったのなんのって、すぐに直ったので修理代も取らずと、大変お世話になった方でした。当時小学生だった娘さんも一緒に来てくれましたが、私の送った写真をずっとお店に飾ってくださり、「いつか会いたいね」とずっと家族で話していたそうです。

昔は遠く感じましたが、今は高速で130キロ1時間半ちょっとの距離。先月バイク雑誌の表紙になったのを見たショップのお客さんが「近くの長野県にいる」と教えてくださったので実現したのでした。現在85歳ですが、足腰も言葉も運動もバリバリのエンクルリックじいちゃん。1930年代のハーレーを乗りこなしていた頃と全くお変わりなく、勇気づけられました。私もまたまた人生走れる!と。世の中気候の変動に加えて、新型コロナウイルス騒動と目に見えない不安の最中ではありますが、人との出会いや感動は何よりの栄養剤。私なりに最大限に気をつけつつ、更に旅を続けたいと思う立春でした。



雪なしで、元気なバイク女子に冬眠なし。埼玉から50ccでやってくる歌子さん(左)と地元のみずちゃん。

三好礼子
エッセイスト・元国際リスト
~ <http://www.fairytale.jp/> ~

★三好礼子の★
ナチュラル・ロード



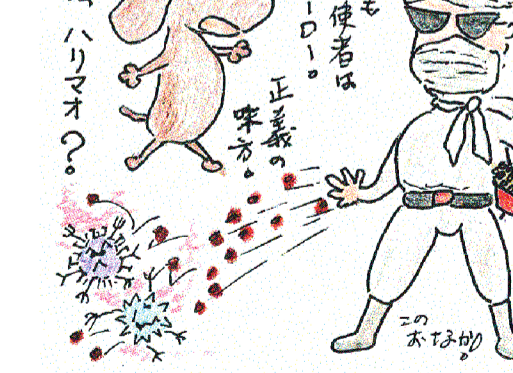
43年ぶりに新潟の妙高市から会いに来てくれた滝沢モーターズファミリー。みんな笑顔でハワフルで最高!



親族でハーレー党だった滝沢さん。右は私が送った伊豆ツーリングの写真。ずっとお店に飾ってしてくれた。

ハット
思いました
空飛ぶクルマ、空飛ぶバイク。子供の頃の漫画の世界、夢物語が現実になってきました。

では何故、近年、空飛ぶクルマとか空飛ぶバイクと言われるのか?不思議ですか。現物は、確かいかいドローンタイプ、小型のヘリコプタータイプです。何かと話題のオスプレイにも通じるかも。とてもクルマとは言い難いフォルムなんです。確か、エアカーパーを使ってたかな。実写版だったので、妙にリアリティがあって憧れていました。50年以上前の事ですけれど。



月夜飯面
あれはハリマオ?
正装の味方。
月夜飯面はヒーロー。
いっしょに月夜飯面を。
Ki

海に面した温暖な気候の大分県杵築市(きつきし)。海の幸にも山の幸にも恵まれ、江戸時代は杵築藩松平氏3万2000石の城下町として栄えました。今でも城下町の面影が色濃く残り、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。「酢屋の坂」から眺めると、谷の向こうにも坂道が続いていて、こちらは「志保屋の坂」です。坂の名前は谷町の商人と関係しています。例えば上級武士だった大原邸は、見事な茅葺き屋根や広い回遊式庭園がそのまま残り、往時の暮らしたことがうかがえます。杵築の藩主は学問好きだったことから、城下の幅や坂道の傾斜は、家老たちを城へ運ぶ馬や駕籠(かご)かきの歩幅を計算して造られているそうです。

古い建物もたくさん残っています。例えば上級武士だった大原邸は、見事な茅葺き屋根や広い回遊式庭園がそのまま残り、往時の暮らしたことがうかがえます。杵築の藩主は学問好きだったことから、城下の幅や坂道の傾斜は、家老たちを城へ運ぶ馬や駕籠(かご)かきの歩幅を計算して造られているそうです。

間も藩の侍医を務める一方、芸術・文化でも多くの著名人を輩出しています。城下町の先、湾を望む高台にあるのが杵築城。もともと木付城と呼ばれ、地名も木付だったのですが、あるとき徳川將軍からの朱印状に間違えて「杵築」と書かれていたことから、地受けられます。(写真提供:杵築市観光協会)

い湿地帯を走るエアポート、看板や標識で指示されるホバークラフター、ロソフと、思いのままに酒を飲み、免許証など知ったこと場したロケットトマンなど。兎も角、現在の地に足が着いた平面交通から空間にまで広がったか、取締りなのか、罰則なのか、法律なのか、ドライバー(人間)教育なのか。豆をまいて改善されればよいのですけれど。

九州の散歩道
フリージャーナリスト 湯浅玲子
着物が似合う「城下町の坂道」



高台に挟まれた地形がよく分かる「酢屋の坂」と「志保屋の坂」
八坂川と守江湾に囲まれた天然の要塞として造られた杵築城